

# 運動部活動の指導を充実させるためのチェックリスト

(公社)全国大学体育連合では、スポーツ指導現場における体罰を根絶させ、日本国民が普くスポーツ文化を享受することを目指しています。このチェックリストは「運動部活動の在り方に関する調査研究報告書」(文部科学省、2013年5月27日)に示された「運動部活動での指導のガイドライン」に準拠しており、運動部活動指導上の留意点を示しています。以下のチェック項目のうち、当てはまらない項目や気になる項目については、同ガイドラインの該当箇所を確認しましょう(☞で示してあります)。なお、このチェックリストと「ガイドライン」は(公社)全国大学体育連合のウェブサイト(下記)からダウンロードできますので、ご利用ください。

## 運動部活動での効果的、計画的な指導に関する項目

- 顧問の教員だけに運営、指導を任せるのではなく、学校組織全体で運動部活動の目標、指導の在り方を考えている。☞ p.8-①
- 外部指導者(地域のスポーツドクター、トレーナーを含む)等の協力確保や連携を含む適切な指導体制が整っている。☞ p.8-②
- 学生・生徒のニーズや意見を把握し、それらを反映させた目標等を設定し、計画を作成している。☞ p.9-③

## 実際の活動での効果的な指導に関する項目

- 指導内容の科学的な根拠、ならびに安全確保について十分配慮し、これを学生・生徒に対して理解させることによって、意欲や自主的、自発的な活動の育成、学生・生徒と十分な信頼関係ができています。☞ p.10-④
- 「肉体的、精神的な負荷や厳しい指導」と「体罰等の許されない指導」とをしっかりと区別できている。☞ p.12-⑤

## 指導力の向上に関する項目

- 指導者は、効果的な指導に向けて、自分自身の実践、経験にたよるだけでなく、最新の研究成果等を踏まえた科学的な指導内容、方法を積極的に取り入れている。☞ p.16-⑥
- 多様な面で指導力を発揮できるよう、継続的に資質能力の向上を図っている。☞ p.16-⑦  
ここで言う多様な面とは、①当該スポーツ種目の技術的な指導やルール、審判に係る内容、②学生・生徒の発達の段階や成長による変化、③心理や生理、④栄養や休養、⑤部のマネジメントやコミュニケーション等に関する幅広い知識や技能などを意味します。

